コンゴ民主共和国赤道州における焼畑農耕民ボンガンドの生計戦略

−地域の内発的な発展に向けて−

平成 25 年入学
派遣先国:コンゴ民主共和国
高村　伸吾

キーワード: ボンガンド, 交易, 内発的発展

対象とする問題の概要

コンゴ民主共和国(以下コンゴ民)は 1960 年の独立以降度重なる動乱に晒されてきた。とりわけ 1990 年代の近隣諸国を巻き込んだ第一次第二次コンゴ戦争では多くの人命が失われ,電気や道路・病院などといった生活インフラも破壊された。紛争による直接的被害もさることながら流通体系の崩壊がこの地域に与えた社会的・経済的影響は甚大であり紛争終結後 10 年以上が経過した現在も生活再建への糸口は明らかになっていない。調査地である赤道州ルオー郡ヤリサンガ村(図 1)では焼畑農耕民ボンガンドが 1960 年代に換金作物としてコーヒーを導入し,1980 年代まではピックアップトラックを用いる仲買商人へと販売していた(木村,安岡,古市 2010)。しかし,1990 年代の紛争により仲買商人の買い付けが中絶した為,彼らの生計戦略には大きな変更が余儀なくされている。ほとんど唯一の現金収入源であったコーヒーの販売が不可能になり経済的基盤は失われ,地域の経済復興には無数の課題が山積している。

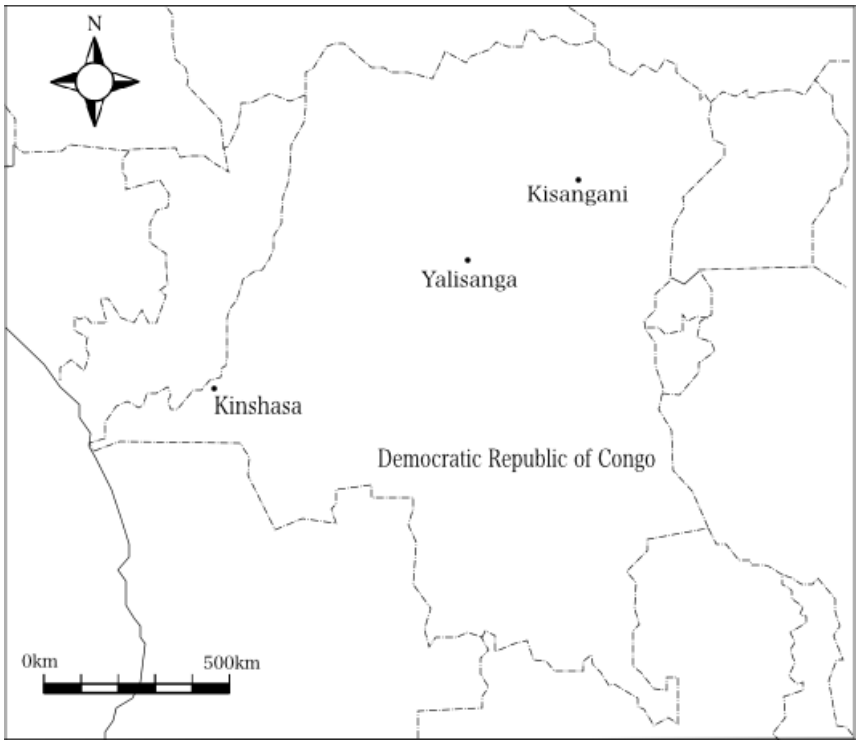

図 1

研究目的

調査地である赤道州ルオー郡では地域の経済的社会的復興に向けて様々な取り組みがなされている。有志がローカル・アソシエーションを結成し,共同畑の開墾や豚や山羊などといった家畜類の畜産を通じて生産力を高めようという努力を続けている。しかし流通網の寸断によってトラックでの買い付けが中断された為,商品流通には多大なコストが発生しており地域復興への大きな障害となっている。現在彼らは狩猟キャンプで採集される魚や獣肉などを乾燥させ(図 2)都市近郊の市場にて換金しているが,その流通には生産者であるボンガンド自身が森の中を徒歩で一週間以上移動するという過大な労役が附されている。彼らの経済的復興には道路・橋を含む流通網の再建(図 3)が急務となっているが,政府による修復予算はもとより国際機関の援助すら期待できないというのが現状である。こうした状況をいかにして打開するのか。予備調査では住民による地域復興の可能性について検討を加えた。

図 2

図 3

フィールドワークから得られた知見について

予備調査を通じてボンガンドの生業から流通までの大まかな流れを素描することができた。現地の狩猟キャンプにおける狩猟・漁撈活動,そして大消費地である州都キサンガニまでの流通の過程を参与観察した。教育や医療費を捻出するためボンガンドは狩猟キャンプにて魚や獣肉を獲得しパニャとよばれる籠に詰め込む。これらを仲買商が活動する市場ヤエンゲまでの流通させる作業は困難なものがある。彼らは 40 キロの物資を背負い森の中を一週間以上にわたって歩き続ける(図 4)。

調査地ヤリサンガ村から州都キサンガニまでのおよそ 250 キロを広域調査(図 5)することで,地域復興へと立ち向かう多くの人々と出会えたことは本フィールドワークの大きな収穫であった。紛争以前から仲買・流通活動に従事してきたバロケレ・バゲーニャなどの河川交易民,州都キサンガニでは戦後の復興活動に従事する現地 NGO 職員,政府インフラ省の役員などと交流することができた。世界最貧国の一つに数えられるコンゴ民において政府に頼らず住民の手で経済を復興しようという彼らの取り組みには多くの点で触発され,今後の研究方針を定める一助となった。

日本の六倍という広大な国土を有するコンゴ民において道路・水道・電気などといった生活インフラの復旧には多大な予算が必要となり紛争終結後 10 年を経た現在も全く回復の目処は立っていない。しかし,現地調査を通じて多くの人々が自分の,あるいは自分の子どもの世代の為にやるべき事があるという語りを聞き取る過程で研究者として関われる何かがあると直感することができた。こうした実感は今後長期的に研究を進めていく上での指針にも繋がっていくのではないかと強く感じている。

図 4

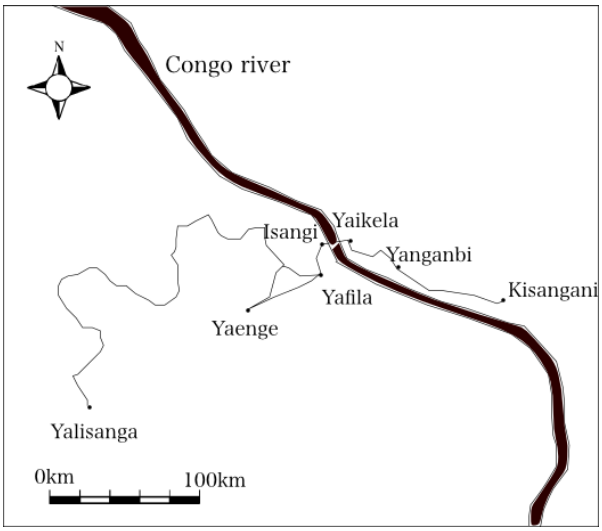

図 5

今後の展開・反省点

本調査を通じて焼畑農耕民ボンガンドの生業とその流通過程までの大まかな概観を素描することができた。しかし,ボンガンドが行商によってどの程度の現金を獲得しているのか,また獲得した現金をどのように用いているのか,彼らの経済活動の全貌を明らかにすることはできなかった。各人の運搬量を計り行商によって生じる利益や労働日数など定量データを蓄積し研究論文に繋げていかなければならない。また,ヤエンゲからキサンガニまでの流通に携わる仲買商人の交易活動についても調査の必要性を感じている(図 6)。流通・商業を活性化することが彼らの内発的発展の前提条件となる。次回の調査では,交易に関わる河川交易民と内陸部農耕民との経済的なつながり・流通過程を明らかにする。その為に知己を結んだ人々とどのように協働していくのか,研究計画の策定とそれを実行するため能力の養成に努めたいと考えている。

図 6

参考文献

木村大治, 安岡宏和, 古市剛史(2010)「コンゴ民主共和国・ワンバにおけるタンパク質獲得活動の変遷」木村大治・北西功一(編)『森棲みの生態誌ーアフリカ熱帯林の人・自然・歴史 I』京都大学学術出版会, pp. 333-351